

背候は、雙方共嚴重之沙汰に及べく、萬一ゆるかせにいたし置、口論狼藉等いたし候もの有之  
においては、其役筋之もの迄可爲越度候、  
右之通可被相觸候

十月

〔諸事留〕天保二卯年四月

三差上申證文之事

新造日除船壹艘

右者此度新規造船御役船御用相勤常ハ手前稼船ニ仕度旨奉願候ニ付、左之通被仰渡候、

一御成御用は不及申上、出水其外急御用之節御差支無之様、戸障子船道具等迄常々不見苦候様

致シ、晝夜不限場所刻限等間違無之様、諸事入念、御用船相勤可申候、

一御用船ニ差出候節、水主共儀、不見苦様いたし、船中がさつ權威ク間敷儀無之様致、御大切に船

廻り場所先々ニ而ハ、御役船御手先之差圖請違背無之、諸事前々之通相心得、可相勤候、

一新造并造替願、其外代替引越、又は他江讓渡等御願不申上、猥仕間敷候、

一且日除船借貸等不相成候、若紛敷日除船有之候ハ、急度可被仰付候、

一御用無之節は、戸障子取拂竹簾掛ケ、艙壹挺立手前稼致し、御用之外ハ、戸障子入艙敷立候儀、堅

致間敷候、

右之趣、其外相背ニおひてハ、急度可被仰付旨、尤右船造立出來次第、御極印被仰付、其節御焼印

一札渡可被下旨被仰渡、是又承知奉畏候爲、後日證文差上申處、仍如件、

天保三卯年四月

江戶橋藏屋敷 傳右衛門

江戶橋藏屋敷 佐船主 傳右衛門

江戶橋藏屋敷

傳右衛門